

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

地域の老人は大変健康であり、現状の2週間に一度の投薬で十分。現在、高齢化率50%、10年後の地域の状況、後任者が心配。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

月に4、5人、公立置賜総合病院へ紹介している。

中津川小中学校（前項で27人程度）の校医もやっており、かぜなどで、子供たちもくるが、耳目などは長井に行っている。長井市内には全科揃っている。

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

施設への行き来はあまりない。デイサービスを受けに椿まで言っている人も数人。みんな元気

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

たまにある程度。

特老へ週一回行っているの、看取りはそこで行っている程度。

### 6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

②代替医、集約化、医師確保について

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・保育所が廃止、職場がないため、結婚すると多くは町へ出て行く。

・県道沿い以外の地域は、人口の減少が激しい。

・Iターンはここ10年で5名



## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) 2人

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 高血圧
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車
- ④2次医療機関 :
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : なし
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町のミニドックを診療所で受診
- ⑧その他 : 血圧のほかは、病気になったことがないため、診療所で十分。

## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 宇津沢(Iターン)
- ④家族構成(単身等) 単身(10年目)

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 高血圧
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車
- ④2次医療機関 :
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : なし
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町のミニドックを診療所で受診
- ⑧その他 : 血圧のほかは、病気になったことがないため、診療所で十分。

## 患者さんへのインタビュー 3

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 75歳 ③住所(地域名) : 宇津沢
- ④家族構成(単身等) 夫婦(子どもらは、外へ出て行った)

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 内科(血圧関係、通常)
- ②受診頻度 : 週2回
- ③交通手段(状況) : 送迎車を利用
- ④2次医療機関 : 公立置賜総合病院
- ⑤時間外等の対応 : 利用したことは無いが救急車だろう。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 大変助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 町の検診が年1回ある。
- ⑧その他 : 特になし。

※ 全体的な印象として、血圧などの慢性的なもの以外は、健康的な患者が多い。

## 患者さんへのインタビュー 4

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 76歳 ③住所(地域名) : 宇津沢  
④家族構成(単身等) 夫(75)と2人暮らし

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方してもらいに定期受診している
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 町患者搬送車(所要時間10分)
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、紹介状を書いてもらい、自家用車で公立置賜総合病院に行く(所要時間:車で40分位)。
- ⑤時間外等の対応 :  
時間外の場合を含め、急病の場合も救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 診療所までの送迎があるので助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 :  
健診は診療所向かいの介護予防センターが会場なのでそこで受診している。  
自分は、今年5月に受診している。健診会場までは自家用車や近所の人と乗り合いで来る。
- ⑧その他  
・風邪などでこの診療所に来る人もいるが、自分は定期受診時以外に診療所に来ることは余り無い。  
・この辺りは、雪が多いが、道路は除雪してくれるので冬の移動はそれ程負担にならない。

## 患者さんへのインタビュー 5

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 74歳 ③住所(地域名) : 宇津沢  
④家族構成(単身等) : 夫(74)と2人暮らし

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方してもらいに定期受診している。定期受診時以外には風邪などの場合にも診療所に来る。
- ②受診頻度 : 週2回
- ③交通手段(状況) : 送迎車を利用(所要時間10分)
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、紹介状を書いてもらい、自家用車で公立置賜総合病院に行く。(所要時間:車で40分位)
- ⑤時間外等の対応 :  
時間外の場合を含め、急病の場合も救急車を利用し、公立置賜総合病院を受診する。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 診療所までの送迎があるので助かっている。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は介護予防センターで受診。今年5月に受診。自家用車で来る。
- ⑧その他 :  
・若い世代は主要沿線沿いには住んでいるが、自分が住んでいる地区(宇津沢地区)には少ない。  
・若い人は町内や長井・川西に通勤している人が多く、移住する者も少なくない(自分の子ども達は職場の近くに別居している)。

## 9 鶴岡市国民健康保険大網診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年6月27日（水）15：00～16：00

②対応者：佐久間和弘 所長（38歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生 松浪  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

|    | 項 目  |  | 備 考                     |
|----|--|--|-------------------------|
| 1  | 診療所の位置   | 鶴岡市大網字興屋 69-1（旧朝日村）<br>小学校、郵便局等隣接  | 小学校児童 24 人<br>保育園園児 8 人 |
| 2  | 地域の状況<br>（人口、高齢化率、高齢<br>単身者率、受診者の平均<br>年齢人口等）                  | 朝日地区 5,314 人、高齢化率 32.0%、（大網地区：約<br>540 人）、起伏が大きく、積雪も多い地域<br>患者には、高齢者だけでなく子どもも比較的多い。<br>（田麦野地区からもまれにくる） | 隣接保育員、小学校の<br>校医        |
| 3  | 診療科（実際に診ている<br>診療科・主な疾病等）                                      | 内科・小児科   | リハビリは鶴岡へ                |
| 4  | 診療日時   | 月・水・金 13時30分 ～16時30分   |                         |
| 5  | スタッフの状況<br>（異動状況、充足状況、<br>派遣元（（社）地域医療支<br>援機構・へき地医療支援<br>機構等）） | 医師 1 名<br>看護師 2 名（嘱託）<br>事務職員 1 名（住民票の発行なども行っている）。<br>※人事異動はあまりなく、看護師も 30 年近く勤務                        |                         |
| 6  | 運営方式<br>（経営状況）   |  |                         |
| 7  | 主な診療機器   | 腹部エコー、レントゲンもあったが需要が無いため廃<br>止。   |                         |
| 8  | 外来患者数(1日)  | 20 人   |                         |
| 9  | 通院手段   | 車、徒歩、バス（1日数本）<br>（送迎バス等はない上、地域のバスの運行本数は少な<br>く時間が限られている状況）   |                         |
| 10 | 周辺の医療機関  | （最短の診療所は）旧朝日村に 2 箇所。櫛引町に民間<br>医院 5 箇所  |                         |
| 11 | 周辺の福祉施設  | 熊出地区（国道 112 号線沿の落合の隣）に特別養護<br>老人ホーム等あり。  |                         |
| 12 | 救急体制、夜間・時<br>間外の診療体制   | 夜間は、自家用車や、救急車対応。   |                         |
| 13 | I T 等の導入状況<br>（電子カルテ・遠隔医療）                                     | なし   |                         |

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・救急や重篤患者への地域中核病院のバックアップ、連携が課題
- ・通院可能な交通手段がない（現在は、となり近所の車で対応）

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

- ・紹介数の正確な数字は不明だが、比較的多い。（紹介率1割、逆紹介率1割程度）
- ・紹介先は、鶴岡市立荘内病院。日本海病院もある。  
※荘内病院も、患者があふれていることもある。

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

- ・受け持ちの患者が入所している場合など、施設から呼び出しがある。
- ・閉じこもり気味の高齢者など、外へ連れ出したほうが良いと考える。
- ・町の施設の主治医になっており、3ヶ月に1度往診、活用を呼びかけている。

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・往診あり（現在寝たきりはいない。）
- ・看取りは年に数例

### 6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

②代替医、集約化、医師確保について

医師の不足は実感しているが、一概に語れない難しい問題と認識している。

③診療報酬改定に対する意見

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）



## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 77歳 ③住所(地域名) : 大網  
④家族構成(単身等) : 妻・息子夫婦・孫2人と6人暮らし(3世帯同居)

### 2 利用状況

#### ①診療科(今回、通常) :

頭痛があり、診療所の先生の紹介で鶴岡の個人病院(小真木原クリニック・脳神経外科)へ検査受診したが、異常なかったため診療所でフォローとなり、今回は再来である。風邪などの時にもここの診療所に来ており、かかりつけである。

#### ②受診頻度: 週に3回ほど受診

#### ③交通手段(状況) : 自家用車を自分で運転して毎回受診している。

#### ④2次医療機関:

大きな病気をした時やひどくなった時は、鶴岡の荘内病院などに行く。

#### ⑤時間外等の対応: 時間外の場合を含め、急病の場合は救急車を利用する。

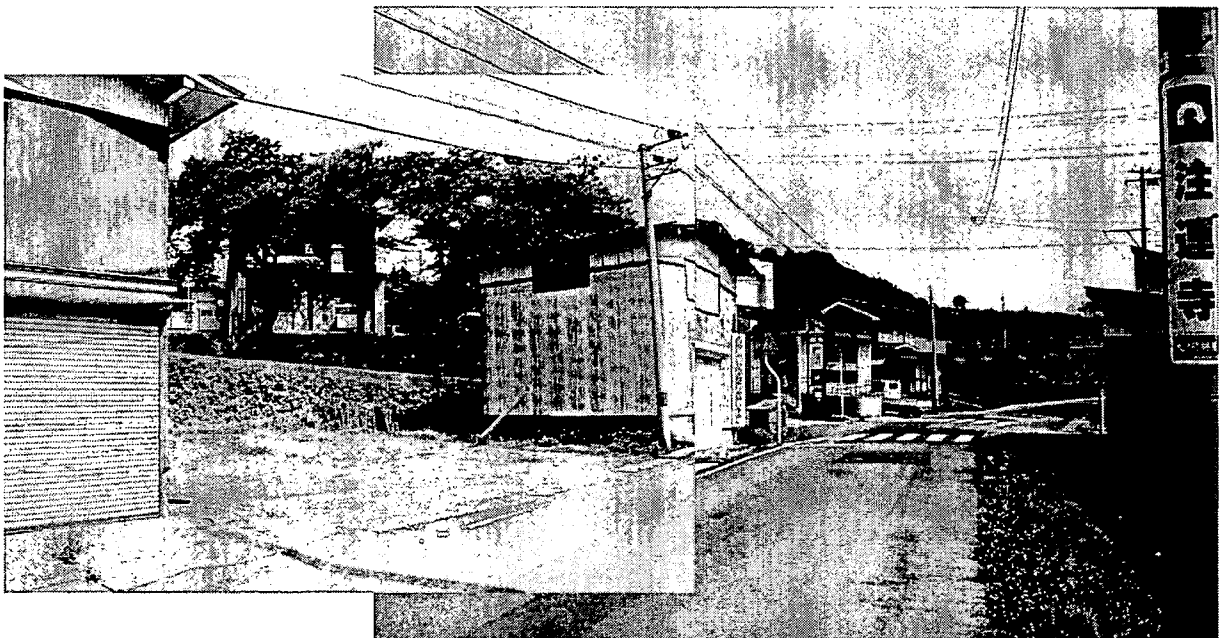
#### ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 鶴岡までの通院は遠いので大変である。

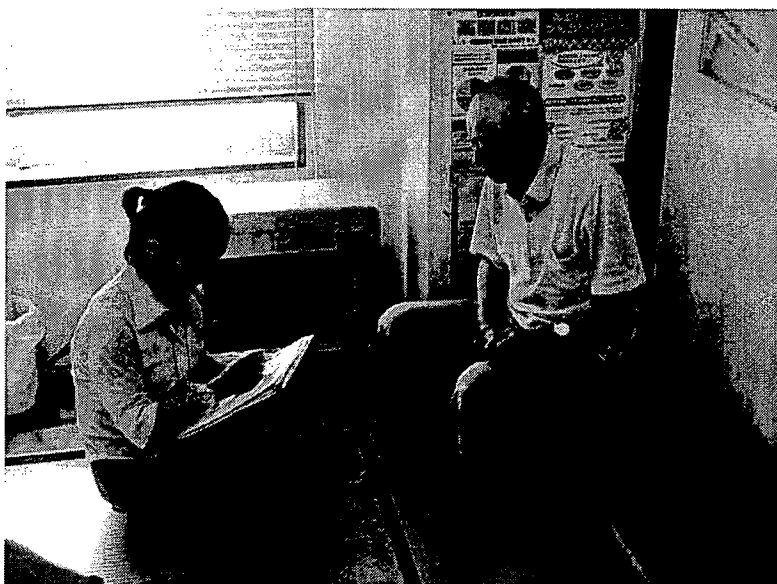
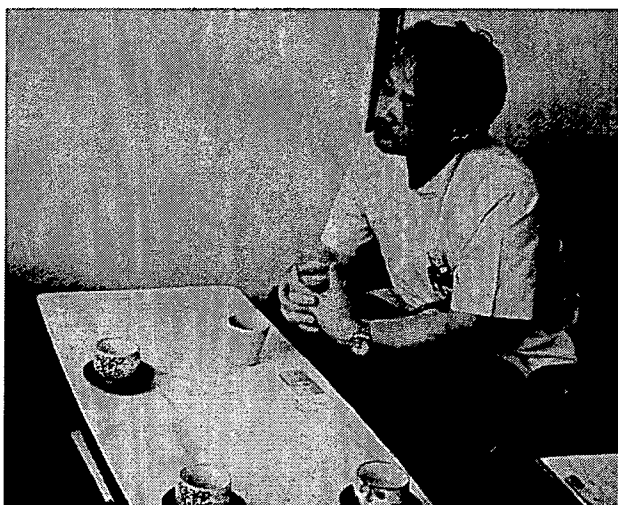
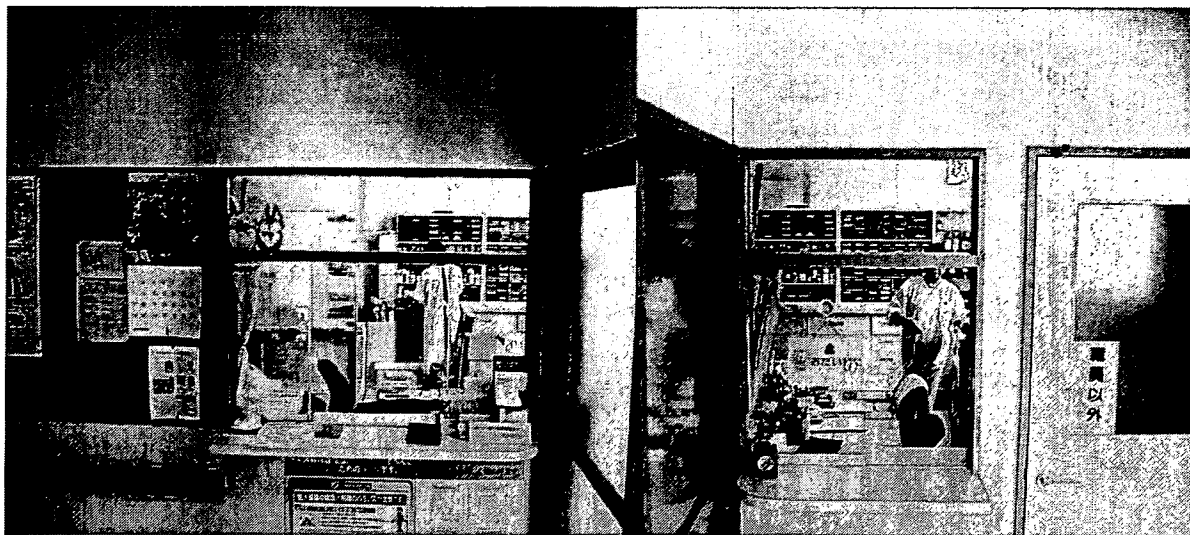
#### ⑦健診(検診)の受診状況:

健診は近くの公民館まで健診車が来るのでそこで受診している。

#### ⑧その他:

- ・若い人達は鶴岡の病院を受診することが多い。小児は予防接種や風邪などでここの診療所に来る人もいるが、他には、鶴岡にある病院に車で行く人もいる。
- ・この辺りは、かつては参拝者でにぎわったが、現在は過疎が進行して、郵便局や店が無くなるなど不便になった。
- ・鶴岡に通勤している人が多いが、特に冬期間は通勤時間が掛かり、除雪の負担もあるなど困難が多く、鶴岡へ移住する者も少なくない。





## 10 鶴岡市国民健康保険上田沢診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年6月27日（水）13：00～14：00

②対応者：小野寺俊直 所長（69歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策額講座 佐藤准教授、同公衆衛生学講座院生松浪  
山形県健康福祉企画課 竹田主事

### 2 基本的事項

|    | 項 目   |   | 備 考          |
|----|---|---|--------------|
| 1  | 診療所の位置  | 鶴岡市上田沢字下中島25（旧朝日村）<br>小学校、郵便局から約500m。上田沢地区のほぼ中心部に位置。役場の出先を兼ねる                           |              |
| 2  | 地域の状況<br>（人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）             | 朝日地区5,314人、高齢化率32.0%<br>（大泉地区：697人、高齢化率35.0%、高齢単身者率7.4%、老人世帯率8%、寝たきり老人8人、認知症老人17人（2.4%） | 隣接保育員、小学校の校医 |
| 3  | 診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）                             | 内科・小児科（標榜）（高血圧、腰、膝の痛みなど標榜科以外も診察している。）   | リハビリは鶴岡へ     |
| 4  | 診療日時  | 月・水・金 13時30分～16時30分   |              |
| 5  | スタッフの状況<br>（異動状況、充足状況、派遣元（（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等） | 医師1名、看護師1名（市の職員）、事務2（役場の出先と兼務臨時、1名は臨時で、月、水、金のみ勤務）                                       |              |
| 6  | 運営方式<br>（経営状況）                                    | 2,100万円の赤字（調整交付金438万円、残りは、一般会計から持ち出し）S55～？<br>単年度2000万の赤字                               |              |
| 7  | 主な診療機器  | マクター、マイクロタイザー。<br>（レントゲンも昔はあったが需要がなく、処分）  |              |
| 8  | 外来患者数（1日）   | 10人   |              |
| 9  | 通院手段  | 患者送迎バス（更に約8km山間部に入った大鳥診療所の廃止とともに設置）、自家用車、徒歩   |              |
| 10 | 周辺の医療機関   | 約12kmはなれた112号近くの落合に小野寺医院（所長が開院）他1の診療所あり。  |              |
| 11 | 周辺の福祉施設   | 落合に特老、熊出にデイサービス施設あり   |              |
| 12 | 救急体制、夜間・時間外の診療体制                                  | 落合の医院、鶴岡荘内病院、日本海病院  |              |
| 13 | IT等の導入状況<br>（電子カルテ・遠隔医療）                          | なし  |              |



### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・とくに、医療面で課題というものはない。
- ・最近、地区に就労先が無く生計維持困難になっている世帯が多いと思われる。
- ・国保の1部負担金が払えないということもあった。医療費を気にして受診しない人もいる。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携バス）

- ・荘内病院に勤務していたこともあり、荘内病院に紹介することが多い。（年間数人）
- ・救急車等で搬送

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

- ・週に2回特別養護老人ホームへ行っている
- ・デイサービス（熊出）から連絡がきて、対応したりなどしている。

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・往診（月に10件程度）。
- ・大鳥を含めて4km圏内。
- ・看取りも年に数件ある。

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

特になし

#### ②代替医、集約化、医師確保について

特になし

#### ③診療報酬改定に対する意見

特になし

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

特になし



## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 78歳 ③住所(地域名) : 上田沢  
④家族構成(単身等) : 夫・息子夫婦と4人暮らし(2世帯同居)

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方してもらいに定期受診している。定期受診時以外には、風邪などの時にもここの診療所に来ており、かかりつけである。家族も同様である。
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 近所なので毎回徒歩で受診している。
- ④2次医療機関 : 大きな病気をした時やひどくなった時には、紹介状を書いてもらい、荘内病院などに行く。
- ⑤時間外等の対応 : 時間外の場合を含め、急病の場合は救急車をお願いする。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) :
- ・入院が必要となった場合はやはり大変である。先日、夫(86歳)が脳梗塞で、鶴岡(荘内病院)に2ヶ月間程入院した。病院までは車で40分位も掛かるので、入院中は、家族が見舞いに行くことが大変であった。さらに、家族の付添が強制ではないが、ある程度必要とされる現状があるため家族の負担が大きかった。現在はリハビリのため施設に入所している。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 健診は近くの公民館まで健診車が来るのでそこで受診している。自分は、今年はまだ受診していない。
- ⑧その他 :
- ・小児は予防接種や風邪などでここの診療所に来る人もいるが、他には、落合にある個人病院(真柄医院)に車で行く場合もある。
  - ・この辺りは、昔は農業の世帯が多かったが、現在は田畑を他者に依託して、建築・土木業などの日雇いで働いている人が多い。自分達には孫がいないが、雇用を求めて町外へ移住する若者も少なくない。

## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 100歳 ③住所(地域名) : 大鳥  
④家族構成(単身等) : 息子夫婦と3人暮らし(2世帯同居) (妻は高齢者施設に入所)

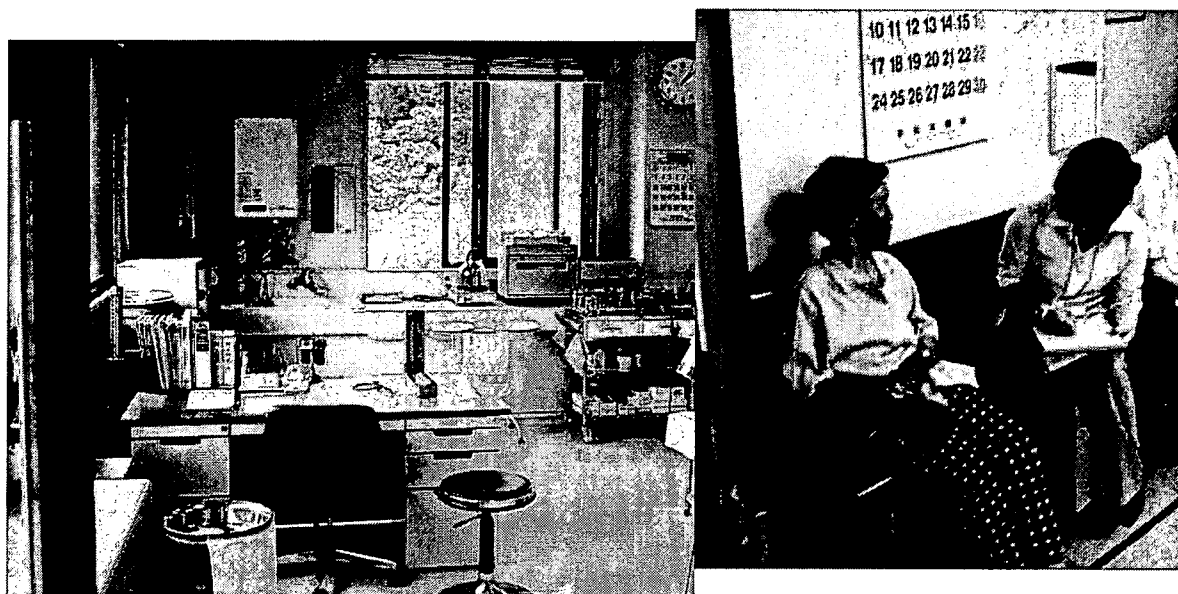
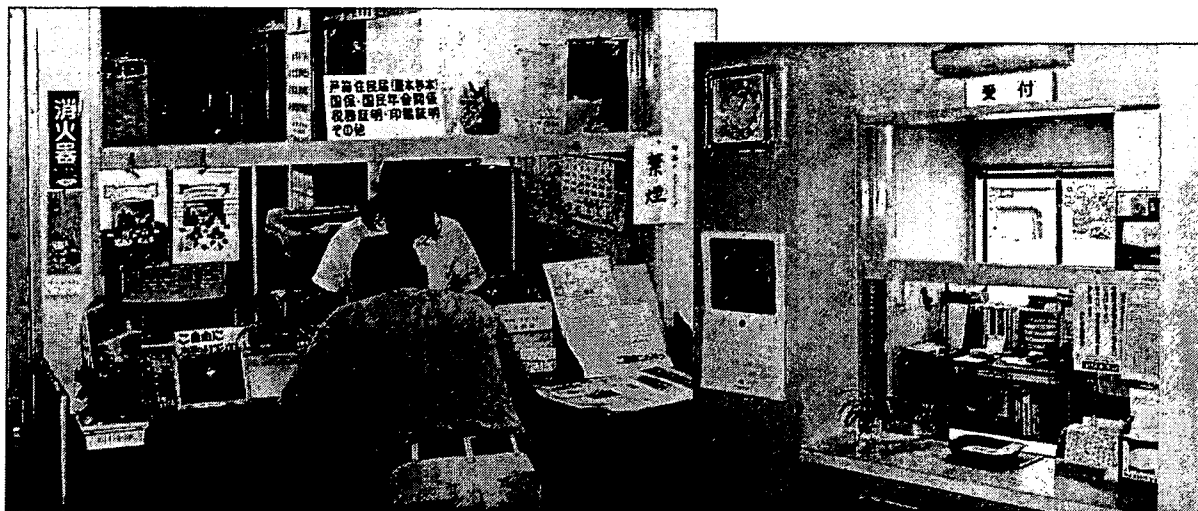
### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧のコントロールのため内服薬を服薬しており、処方してもらいに定期受診している
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 自宅から診療所までの距離がある(約8km)ので毎回診療所の送迎バスで受診している。
- ④2次医療機関 : 診療所がかかりつけであり、大きな病気をした時やひどくなった時には、先生の指示に従って、荘内病院や協立病院などに行く。
- ⑤時間外等の対応 : 時間外の場合を含め、急病の場合は救急車をお願いする。
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 送迎があるのでありがたい。しいて言うならば、救急車を呼ぶと、近所の人気がする傾向があるので困る。

⑦健診（検診）の受診状況：健診は、来月、近くの公民館まで健診車が来るのでそこで受診する予定である

⑧その他：

- ・自分の居住地区は過疎が特に深刻な地区であり、昔は鉱山があったので世帯数が今よりも多かったが現在は少ない。
- ・若いころは近くにあった営林所で働くことも出来たが、現在は地域の合併で営林所もなくなり、その代わりに少年の家やキャンプ場ができた。
- ・自分には孫・曾孫が沢山いるが、同地区内に住むのは同居の実息子だけで、他は皆、県内外に住んでいる。



## 11 酒田市飛島診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年 6月17日（日）～18日（月）

②対応者：杉山 誠 所長（71歳）

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生高橋  
山形県健康福祉企画課 國井主事

### 2 基本的事項

|    | 項 目  |   |
|----|--|---|
| 1  | 診療所の位置   | 酒田市飛島字勝浦甲 66（酒田市の北西方向 39km、遊佐町吹浦から西に30kmの日本海上の離島、定期船で約1時間半）<br>船着場から徒歩約10分（約700m）   |
| 2  | 地域の状況<br>（人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等）              | ・人口 275人（136世帯）<br>・高齢化率：62.59%<br>・単身者率：20%程度ではないか。女性の1人暮らしも26件ぐらいある。  |
| 3  | 診療科（実際に診ている診療科・主な疾病等）                              | 内科・外科（一般診療。何でも診る。）  |
| 4  | 診療日時   | 月～金 8時30分～17時15分<br>（時間外でも対応）   |
| 5  | スタッフの状況<br>（異動状況、充足状況、派遣元（（社）地域医療支援機構・へき地医療支援機構等）） | ・医師1名<br>・看護師常勤2名（約1年交代で酒田市立病院から派遣。しかし、自分から進んで希望し、現在、1人は2年目、もう1人は3～4年目である。）   |
| 6  | 運営方式<br>（経営状況）                                     | 酒田市（酒田市立病院）<br>（繰り入れ状況などは診療所では関知していない。）   |
| 7  | 主な診療機器   | 単純放射線照射機器（X線）・心電計   |
| 8  | 外来患者数（1日）  | 約9名   |
| 9  | 通院手段   | ・巡回通院カー<br>（住民の陳情により、平成11年頃に市で配備。市の運営センターの職員が運転。午前1便のみ。）  |
| 10 | 周辺の医療機関  | 一番近いのが酒田市立病院。酒田市の開業医の先生にかかっている人もいる。   |
| 11 | 周辺の福祉施設  | ・飛島の市の在宅ケアセンター（ショートステイ）<br>平成12年から始まったが、家の者を施設に預けるのに抵抗のある人が多く実際利用するまで時間がかかった。冠婚葬祭などで酒田市に行く際、祖父・祖母を預けるなど利用している。しかし、今日明日急に必要になってもすぐ利用できない。介護士は2人だが市との委託契約により派遣されてくる。人員や食糧の関係などでお願いしてから3日ぐらいはかかる。多くても3人でいっぱいになる。いつもは1人入所が多い。 |
| 12 | 救急体制、夜間・時間外の診療体制                                   | 夜間・時間外も診ている。診療所で対応しきれない患者については酒田市立病院に運ぶ。運ぶ手段としては定期便に間に合えばそれで運ぶ。間に合わない場合はヘリを要請する。しかし頼んでから病院に着くまで約90分はかかる。また夜間は飛ばせない。夜間の場合は巡視艇にお願いするが、お願いしてから病院に着くまで4時間はかかる。ヘリの利用件数は年間約6件、巡視艇は年間約2件。<br>時間外は月平均80回、往診数は60回。介護保険申請数は10通前後。   |
| 13 | IT等の導入状況<br>（電子カルテ・遠隔医療）                           | 入れる必要なし。誰が操作するのか。メンテナンスやランニングコストがかかるだけ。紹介状書いて市立病院に送った方がいい。  |

### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

- ・人口減っていることで患者数も減っている。

原因：・子供が酒田市の学校に通うため親もついていく

- ・漁業においても、酒田市の市場に荷揚げされるため、酒田に家がある方が行ったり来たりすることなく効率がいい。

- ・体が悪くなったら酒田に住んで病院に通って、良くなったら飛島に戻ってきたりする。

- ・高齢者が1人死亡するとその家族が酒田に行ってしまう。

- ・ここでは完全な医療は必要とされていない。（膨大な人員と施設が必要）

必要とされているのは、ここで大丈夫か、それとも高度な医療が必要かとのふり分け。医療における自分の立場をまっとうすべきであり、設備やスタッフの充実など必要ない。

- ・離島診療を全国一律に論ずることはできない。飛島は本土から遠く、小さい島。佐渡などとは全く違う。

### 4 他の機関との連携状況

#### ①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携バス）

紹介は酒田市立病院が多い。病院でも紹介患者を重視し、また患者も病状を医師にうまく表現できなかったりするため、紹介状は必ず書く。同じ市同士であるから、市立病院だと紹介料も取られないし、返信も来る。逆紹介は紹介患者の数の4分の1ぐらい。今回の県立日本海病院との合併では、紹介する方にとっても選択肢が半分になってしまう。

#### ②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

- ・終末期医療、ターミナルケアは酒田市の大きな病院に行く。
- ・死亡診断書作成は年に1、2例。島で亡くなるという人は急死が多い。
- ・在宅医療は看護師もいないので、往診という形をとっている。

### 6 その他

#### ①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

- ・飛島診療所で論ずることは意味がない。救急をどうするかが大事なこと。

#### ②代替医、集約化、医師確保について

夢みたいなもの。代替医などの患者にとっても知らない人から診てもらおうなど嫌ではないか。

#### ③診療報酬改定に対する意見

（報酬関係は市であり診療所では関与していない。）

#### ④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

- ・これまで診療所を空けたことはこれまで2回しかない。休みはなくとも辛いとは思わない。
- ・若い人をへき地医療に派遣するというのは無理。  
少なくとも10年～15年ぐらい経験を積んでなければできない。金を出したりしても、やる気がない者では意味がないし、質の向上にならない。派遣された地域の患者がいい迷惑である。
- ・地方の体力がなくなっている。盛り上がっている所でないとも来ない。地方こそ活力のある地域にしなければならない。そうでないと医師は呼べない。
- ・飛島に必要なものは福祉施設の充実である。酒田市の福祉施設にお世話になっている人が30人く

らいいる。

- ・高齢化に伴う福祉行政の充実や災害対策が重要である。
- ・市で配備した診療所の車が小さく患者も運べない。もっと大きな車だとよいのだが。
- ・飛島は無人島にはならない。漁師も体力に限界が来たら、老後は飛島に帰ってくる。
- ・今は観光客も徐々に減って3万人くらいであるが、釣りやバードウォッチングなど毎年固定客がいる。ゴールデンウィークなどはバードウォッチングの客で民宿が一杯になる。
- ・現在定期船の寿命に伴い、新しい船をどうするかが検討されている。

## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

①性別 女 ②年齢 70歳 ③住所(地域名) : 法木地区

④家族構成(单身等) 嫁と2人暮らし

### 2 利用状況

①診療科(今回、通常) : 血圧の薬

②受診頻度 : 週1回

③交通手段(状況) 嫁の車

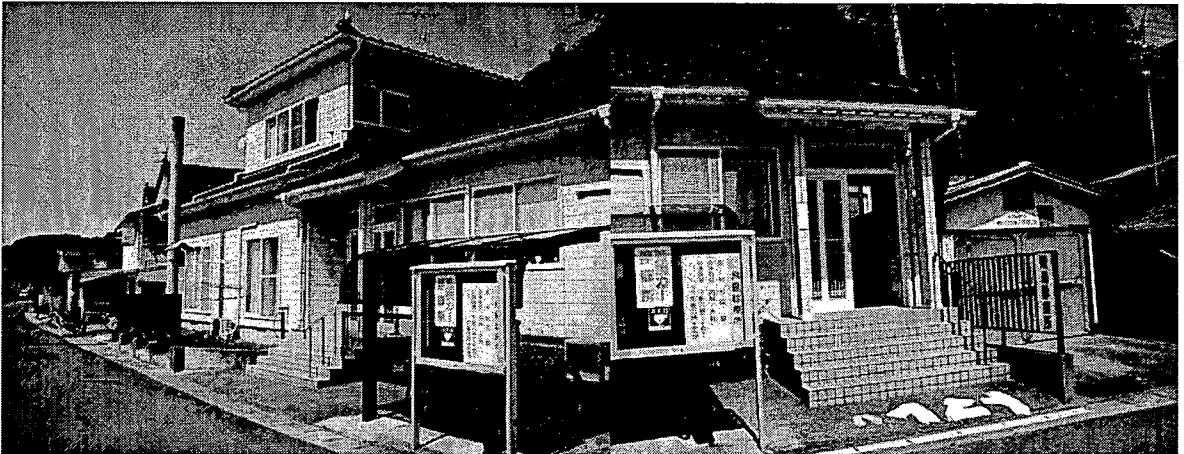
④2次医療機関 : なし

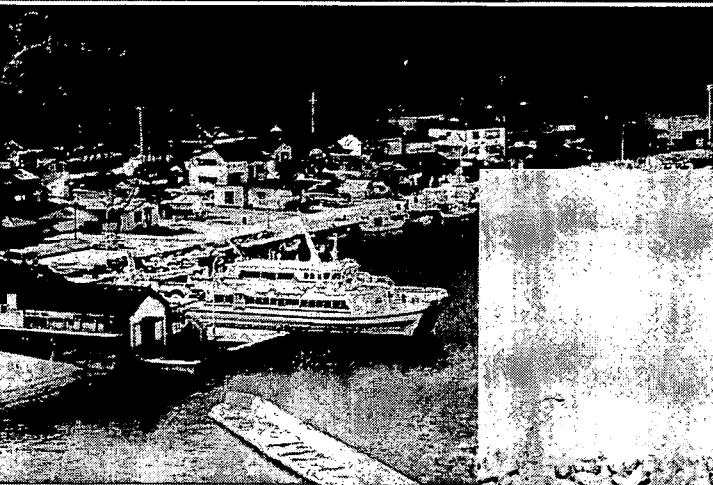
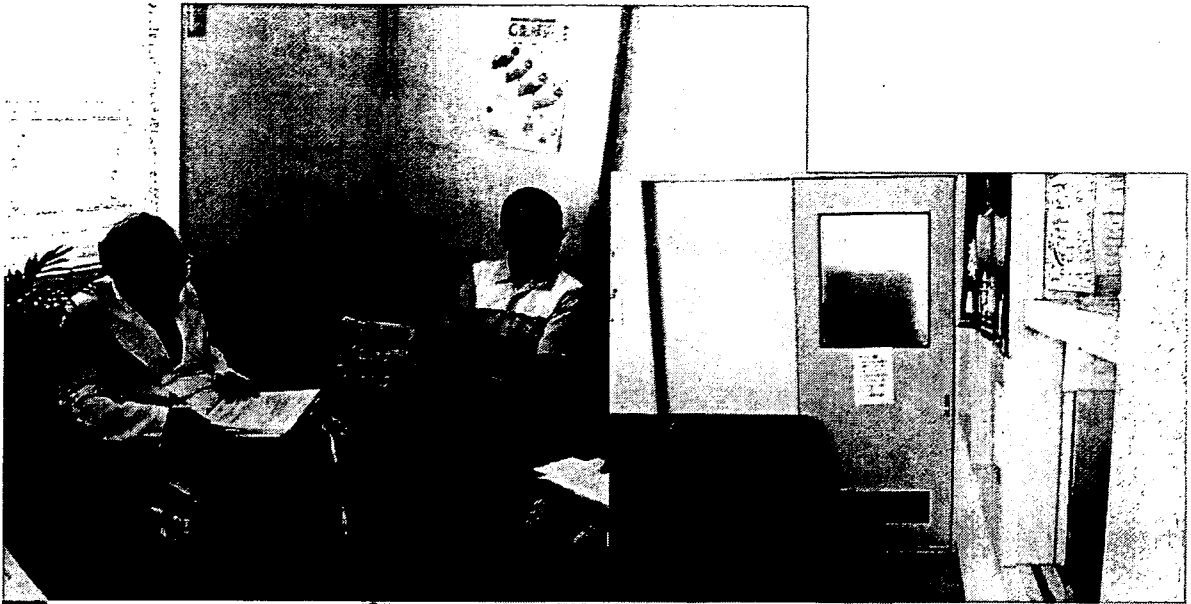
⑤時間外等の対応 : いつでもしてくれる

⑥医療で困っていること。(診療所への希望) 特にない

⑦健診(検診)の受診状況 : 受けていない

⑧その他





## 12 酒田市立升田診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年8月2日12:30～14:30

②対応者：土井和博 所長 (51歳)

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 渡辺  
山形県健康福祉企画課 庄司主査

### 2 基本的事項

|    | 項 目   |  | 備 考 |
|----|---|--|-----|
| 1  | 診療所の位置  | 酒田市升田字東向16<br>升田簡易郵便局まで200m、升田公民館での診療（療診療所の常備薬は風邪薬ぐらい。）  |     |
| 2  | 地域の状況<br>(人口、高齢化率、高齢単身者率、受診者の平均年齢人口等)             | 地区人口318人、高齢化率40.25%、高齢者のうち単身者の率9.38%、受診者の平均年齢79.7歳<br>・耳が遠く、車の運転もできず、歩いてこられる、「自分は高齢者」と思っている人のグループしか診療所には来ない。最低限の認知機能と元気を持っている人。患者は年々減少。新規なし。 |     |
| 3  | 診療科(実際に診ている診療科・主な疾病等)                             | 内科(慢性疾患)   |     |
| 4  | 診療日時  | 毎週木曜日 13時30分～15時30分まで<br>(午前中は八幡病院で外来)   |     |
| 5  | スタッフの状況<br>(異動状況、充足状況、派遣元((社)地域医療支援機構・へき地医療支援機構等) | 医師1名、看護師1名、事務職員1名、運転手1名<br>酒田市立八幡病院より派遣  |     |
| 6  | 運営方式<br>(経営状況)                                    | 酒田市立<br>いつまで維持するかは聞いていない。診療所がなくなれば無医地区となる。   |     |
| 7  | 主な診療機器  | なし。  |     |
| 8  | 外来患者数(1日)   | 9.0人<br>ほとんどが高血圧症。月1回来院。一部2週間に1回(次は〇月〇日と書いて渡す。)  |     |
| 9  | 通院手段  | 徒歩又は自転車  |     |
| 10 | 周辺の医療機関   | 酒田市立八幡病院まで車で20分(約12km)<br>(県立日本海病院までは約25km)  |     |
| 11 | 周辺の福祉施設   | 八幡病院脇の幸楽荘まで車で20分<br>(特老、ショートステイ、グループホーム)   |     |
| 12 | 救急体制、夜間・時間外の診療体制                                  | 連絡先を酒田市立八幡病院として対応  |     |
| 13 | IT等の導入状況<br>(電子カルテ・遠隔医療)                          | なし。  |     |



### 3 地域医療（へき地医療）の現状と課題（総論）

・へき地であっても道路は整備されており、車を運転できる人は問題ない。移動手段のない人々に、医療サービスを届けることが課題。それよりも後継医師を確保できないのが課題か。

### 4 他の機関との連携状況

①医療機関との連携（前方支援、後方支援、医療機器、紹介率、逆紹介率、地域連携パス）

紹介、逆紹介もスムーズにしている。パスはまだ機能していない。

②老人保健施設、特別養護老人ホーム等介護・福祉施設との連携（老老介護等の状況）

スムーズに患者さんの移動が行われている。

### 5 在宅医療、在宅療養支援診療所、療養通所介護、看取りなどの状況

診療所周辺の数名の在宅患者さんを訪問

### 6 その他

①新医療計画：9つの主要な事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、小児医療、救急医療、周産期医療、災害医療、へき地医療）

・がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病について30歳台男性への介入と教育が必要。

・がんについて、北庄内は死亡率が高く、検診が普及していないことが原因と思われることから、本間医師会長のリーダーシップで受診率向上に取り組んでいる。

②代替医、集約化、医師確保について

・自治医科大学の支援を引き続き希望する。

③診療報酬改定に対する意見

・在宅支援診療所と同等の医療を行っても、病院の報酬が低いのは不合理。

④その他（当直等の勤務環境・労働条件他）

・これからは、へき地医療であっても、診療レベル、費用対効果を吟味する必要がある。

・平成6年に、町長には診療所を止めるべきだと言った。しかし、今は現状どおりやった方が良いと思っている。バスに乗って八幡病院まで来なさい、というと、来られない人も出てくる。在宅医療を受けている人がいるので、週1、2回は行かなければならない。

・在宅医療を受けている人は、升田地区で7軒あり、定期的に訪問している。寝たきりの方、脊髄損傷の60代の方、1人暮らしの方、様々。

・施設に入るにはお金がかかるし、空きもない。施設に入って幸せかと言うとそうではないから、在宅にいるという面も。在宅を増やす土壌はある。

・高齢者のパターンとして、一つは、徐々に身体機能等が衰微していくパターン。二つ目は、急に機能が落ちて、一気にだめになるパターン。三つ目は、悪くなったりちょっと良くなったりを繰り返すパターンの3つがある。今のところ、診療所では一つ目のパターンだけを見ている状態。本来はすべてに対応しなければならないのだろうが、難しい。

## 患者さんへのインタビュー 1

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 82歳
- ③住所(地域名) : 升田
- ④家族構成(単身等) 息子と2人暮らし

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 整形(膝)
- ②受診頻度 : 一週間に1回
- ③交通手段(状況) : 徒歩(家から歩いて5分程度)
- ④2次医療機関 : 日本海病院(3ヶ月に1回検査を受けに行っている。)

周辺では、八幡病院に行く人と酒田病院に行く人と色々いる。

- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望)
- ⑦健診(検診)の受診状況

若い頃から酒田市の村山医院にかかっている(血圧)ため、ここでは健診は受けていない。



## 患者さんへのインタビュー 2

### 1 対応者

- ①性別 女 ②年齢 78歳 ③住所(地域名) : 升田
- ④家族構成(単身等) 単身

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) : 血圧(7~8年)、骨粗しょう症(睡眠薬も処方...安定剤代わり)
- ②受診頻度 : 2週間に1回
- ③交通手段(状況) : 徒歩(家から歩いて5分程度)
- ④2次医療機関 : 救急車で行くとしたら日本海病院(但し、行ったことは無い)
- ⑤時間外等の対応 :
- ⑥医療で困っていること。(診療所への希望) : 不満は無い。
- ⑦健診(検診)の受診状況 : 異常なし
- ⑧その他

- ・何でも話ができる先生だから有難い。
- ・3年前、手を折って脊髄も損傷。昨年先生からの勧めで日本海病院にも通うようになり(町営バス)、3/27~4/19に入院もした。

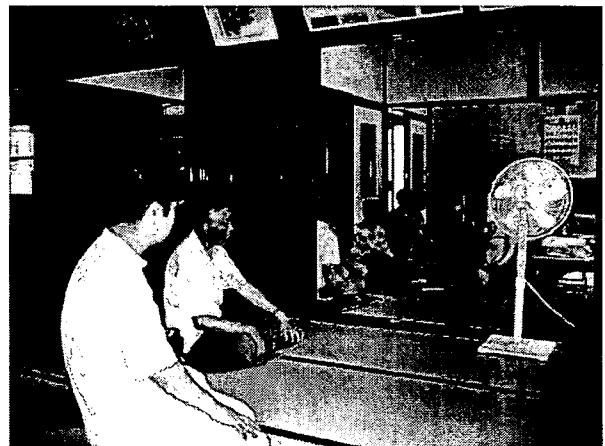
## 患者さんへのインタビュー 3

### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 78歳
- ③住所(地域名) : 升田
- ④家族構成(単身等) 1人

### 2 利用状況

- ①診療科(今回、通常) :  
血圧、骨粗しょう症、眠れない。
- ②受診頻度 : 2週間に一度
- ③交通手段(状況) : 歩いて5分



- ④2次医療機関： 日本海病院（25日間入院してた）、行くときは町営バス（不便）
- ⑤時間外等の対応：1回も経験がない。
- ⑥医療で困っていること。（診療所への希望）： 特になし
- ⑦健診（検診）の受診状況：年1回

#### 患者さんへのインタビュー 4



##### 1 対応者

- ①性別 男 ②年齢 82 歳
- ③住所（地域名）：升田
- ④家族構成（単身等） 2人

##### 2 利用状況

- ①診療科（今回、通常）：足が痛い
- ②受診頻度：週一回
- ③交通手段（状況）：徒歩
- ④2次医療機関：日本海病院
- ⑤時間外等の対応：八幡病院や日本海病院
- ⑥医療で困っていること。（診療所への希望）：特になし
- ⑦健診（検診）の受診状況：村山医院で診てもらっている。

#### 【往診の状況】（1月に1回）

##### 1 【男性・80代後半、一人暮らし】

- ・歩行はできるが、トイレへ行く程度。あまり外までは行かない。
- ・在宅介護支援センター（幸楽荘）へ7ヶ月（H18.9～H19.3）入所し、H19.4から在宅。（冬は入院。）
- ・今年の冬も幸楽荘に入所する予定。
- ・施設で歩行して怪我をしたため、歩行していると怒られたため、それから歩かなくなった。
- ・朝・昼30分、夜1時間の訪問介護（要介護度3）
- ・家族の訪問もまめにある。近所の面倒みもいい様子。
- ・常にベットに寝ており、オムツも着用しているが、顔色もよく、先生ともよく話をする。
- ・先生は触診を多用し、安心感を与えているように見受けられる。
- ・訪問介護のひとがテーブルの上に用意した、夕食？が35度以上の室温の中で、心配であった。



##### 2 【女性、88歳、息子夫婦、孫2人と5人暮らし】

- ・杖により歩行可能。平成11年12月より、腰が曲がり、歩行が困難になってきたため、診療所での診察から往診に切り替えた。
- ・骨粗しょう症、血圧の投薬。耳が遠いが、終始にこやか。座っての対応。
- ・紙細工を得意としており、作品を玄関先に飾ってあった。
- ・昼食は家族のものが用意。片付けや簡単な拭き掃除、草むしりなどをしている。
- ・昨日まで朝晩寒くてストーブ（薪）を炊いていた。

## 13 酒田市立青沢診療所

### 1 訪問の状況

①日 時：平成19年8月2日 14:45

②対応者：所長 土井和博 所長 (51歳)

③訪問者：山形大学大学院医学系研究科医療政策学講座 佐藤准教授、同院生 渡辺  
山形県健康福祉企画課 庄司主査

### 2 基本的事項

|    | 項 目   |  | 備 考 |
|----|---|--|-----|
| 1  | 診療所の位置  | 酒田市北青沢字家の前280<br>青沢簡易郵便局まで150m、八幡町克雪管理センターでの診療         |     |
| 2  | 地域の状況<br>(人口、高齢化率、高齢<br>単身者率、受診者の平均<br>年齢人口等)                 | 地区人口303人、高齢化率35.31%、高齢者のうち単<br>身者の率5.61%、受診者の平均年齢77.5% |     |
| 3  | 診療科(実際に診ている<br>診療科・主な疾病等)                                     | 内科(慢性疾患)   |     |
| 4  | 診療日時  | 毎週火曜日 13時30分～15時30分まで                                  |     |
| 5  | スタッフの状況<br>(異動状況、充足状況、<br>派遣元((社)地域医療支<br>援機構・へき地医療支援<br>機構等) | 医師1名、看護師1名、事務職員1名、運転手1名<br>酒田市立八幡病院より派遣                |     |
| 6  | 運営方式<br>(経営状況)  | 酒田市立   |     |
| 7  | 主な診療機器  | なし。  |     |
| 8  | 外来患者数(1日)   | 4.8人   |     |
| 9  | 通院手段  | 徒歩又は自転車  |     |
| 10 | 周辺の医療機関   | 酒田市立八幡病院まで車で15分(約11km)<br>(県立日本海病院までは約23km)            |     |
| 11 | 周辺の福祉施設   | 八幡病院協の幸楽荘まで車で15分<br>(特老、ショートステイ、グループホーム)               |     |
| 12 | 救急体制、夜間・時<br>間外の診療体制  | 連絡先を酒田市立八幡病院として対応                                      |     |
| 13 | IT等の導入状況<br>(電子カルテ・遠隔医療)                                      | なし。  |     |